



「伝えたい！」というパワーや  
タフネスがあれば必ず伝わる。

別所 哲也

TETSUYA BESSHO

俳優

今なお大切にしている  
先生の一言による気づき

小学校時代は割とおとなしい子どもでしたが、中学校の部活でバレーボール部に入ってから明朗快活な性格に変わりました。印象に残っている先生で真っ先に思い浮かぶのは、小学校で担任の先生だった山田先生（女性）です。理科の授業中、クラスの子が「ニワトリのトサカはなぜ赤いんですか？」と質問をしたときに、僕がつい「赤いのは当たり前じゃん」と言ってしまう。そんな僕に山田先生は穏やかな口調で「別所君が当たり前だと思う理由は何ですか？」と言い、答えられずにいた僕に「世の中に当たり前のことなんて一つもないですよ」と優しく諭してくださったんです。以来、今に至るまで「当たり前って何だろう？」とか「みんな当たり前を受け入れているけれど、本当にそれでいいのか？」と、事あるごとに考えるようになりました。それだけハッとさせられたというか、気づきになった一言だったということですね。そう思うと、学校の先生の一言が持つ力って本当に大きいなとつくづく思います。

音楽や英語への興味・関心の芽を  
大事に育ててくれた祖母

両親が共働きだったので、学校から帰宅した僕を出迎えてくれるのは祖母でした。祖母は、かつて中学校で音楽の教員をしていたので、家でもよくピアノを弾いていました。でも、ただの一度も「弾いてみる？」と言われたことはなく、それどころか、ピアノには常に鍵がかけられていて、開けられないようになっていたんです。ところが、僕が小学2年生のある日、なぜか鍵が開いていて、鍵盤で遊んでいたら、祖母が後ろから「弾いてみる？」と声をかけてきて。その手には子ども用の楽譜がありました（笑）。それで、ピアノを習い始め、音楽に興味を持つようになったんです。

また、祖母は、図鑑のような厚さの世界地図を床に開いて、虫眼鏡で地図を覗き込むということをよくしていました。これも「一緒に見てみる？」と祖母から言われたことはありません。でも、ある日、僕が「何をしているの？」と尋ねると、日本語と英語で併記されている地図を指差しながら「これがアメリカで、サンフランシスコはここ」とか「ここがフィリピン。おじいちゃんが戦争で死んだところよ」などと話してくれました。僕が、海外や英語に興味・関心を持つようになった原点は、こ



自身が主宰する、米国アカデミー公認、アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル&アジア2022」でMCを務める別所さん。グランプリ作品は次年度のアカデミー賞短編部門のノミネート候補作品となる。

こにあるのだと思います。どんなことも興味を持つまで待ってくれた祖母には心から感謝しています。

ハリウッドで挫折したからこそ分かる  
語学の習得に重要なもの

英語はずっと好きで、大学入学後は商社マンになりたいと思うように。英語力を磨く目的もあって、英語劇のサークルに入りました。その結果、演じることに目覚めてしまったわけです。当時の日本はバブル景気で、就職も超売り手市場。商社への内定者も続々と出てくる中で「商社マンになるのは自分じゃなくてもいいな」と思うようになり、俳優の道を選びました。無名の役者生活を送っていたある日、父が新聞の切り抜きを持ってきたんです。ハリウッドの日米合作映画で日本人宇宙飛行士の役を募集しているという内容でした。オーディションを受けたところ、とんとん拍子で最終オーディションまで進み、最後の1人に選ばれ、意気揚々と渡米！ ところがです。撮影開始までに数か月の訓練期間があったのですが、ダイアログ・コーチ（英語台詞指導者）から「なんて言っているのか分からない」と言われてしまうわ、現地スタッフの英語が聞き取れないわで、ひどく落ち込みました。演劇学校に行っても誰とも話さず、人と関わりを持たない毎日。でも、2か月が過ぎたあたりで開き直ったんです。「日本人なんだから上手に英語が話せなくて当然だ！」「最悪、日本語で言っちゃえ！」って（笑）。それからは人が集まる場所へ行って積極的に会話をしたり、お店の店員さんとも話をするようになりました。すると、徐々に相手の言っていることが分かるようになってきて、伝わる英語の言い回しも

身に付いてきたんです。それで何とか撮影に間に合いました。

今は、優れた翻訳ツールがあるので、自分とは異なる言語の人との会話も昔ほど苦勞はないのかもしれませんが、でも、翻訳ツールを挟まずに、直接、話せたほうが「つながる感」が圧倒的に増しますから、語学力はあったほうが絶対にいい。ただ、その語学力というのは「正しい文法」がすべてではありません。「伝えたい!」というパワーやタフネスがあってこそ伝わるのだと僕は思っています。

### 「伝える」に「感情」が乗ると 「伝わる」に変わる

僕は16年にわたり、朝のラジオでナビゲーターをさせていただいています。ナビゲーターも俳優も「伝える」が共通のキーワードですが、一方向の「伝える」を、双方向の「伝わる」(通じ合う)に変えられるかどうかは、感情を乗せられるかどうかだと思うんです。理不尽なことに対する憤りや悔しさ、何かを発見したときの驚き、楽しいときに心の底からあふれてくる喜びや笑いなどを、「伝える」に乗せられるときに「伝わる」に変わるのだと思っています。

また、僕はショートフィルムの魅力を多くの人に伝えたくて、1999年から日本で国際短編映画祭を主宰しています。2001年からは「ショートショート フィルムフェスティバル」(SSFF)の名称で開催しており、2023年に25周年を迎えます。ショートフィルムの魅力を一言で表すなら「もう一人の自分に出逢えること」。100を超える国と地域から集まる作品数は約6,000本。多種多様なショートフィルムが、自分とは別の視点や感性あるいは価値観に気づかせてくれるはず。興

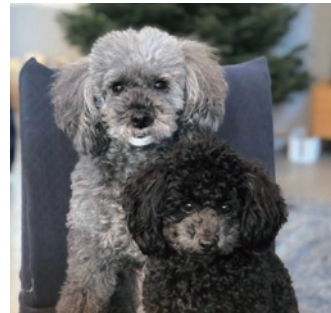
味のある方は公式サイト<sup>\*</sup>をチェックして、是非、もう一人の自分に出逢いにきてください! [※公式サイト▶](#)



### わたしの『ダイスキ!』

#### 「ハナちゃん」と「ノアちゃん」

子どものころから犬が大好き。日々のお世話を通して絆が生まれ、愛おしい存在になる。そして、いずれ天国へ旅立っていく。子ども時代に、犬との暮らしから学んだことがたくさんあったので、自分が家族を持ったら同じようにしたいと思っていました。今、我が家には2匹の犬がいます。ハナちゃん(左)は保護犬で、最初は心を閉ざしていましたが、ノアちゃんを連れてきたら徐々に犬らしさを取り戻し、今は2匹の天真爛漫さに、家族全員で癒やされています。



#### 別所 哲也さん とっておきの手土産をプレゼント!

プレゼントクイズ(P27) 正解者の中から抽選で8名様に、別所さんの出身地、静岡県にあるお茶の市川園から、上級煎茶「はつづみ」と選りすぐりの小粒にんにくに梅肉と本場焼津のかつお節を合わせた「梅にんにく」をプレゼント。ふるってご応募ください!

### 別所・哲也 | べっしょ・てつや |

俳優。1965年、静岡県生まれ。慶応義塾大学法学部卒。1990年、日米合作映画『クライシス2050』でハリウッドデビュー。米国俳優協会(SAG)会員となる。その後、映画・テレビドラマ・舞台・ラジオ・CMなどで幅広く活躍。1999年より、日本発の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル&アジア」を主宰し、文化庁長官表彰を受賞。観光庁「VISIT JAPAN 大使」、映画倫理委員会委員、外務省「ジャパン・ハウス」有識者諮問会議メンバーに就任。内閣府「世界で活躍し『日本』を発信する日本人」の一人に選出。第1回岩谷時子賞奨励賞受賞。第63回横浜文化賞受賞。1月7日から上演のミュージカル「チェーザレ 破壊の創造者」にロドリゴ・ボルジア役にて出演。詳細はファンクラブサイト「T-voice」で。https://t-voice.com/

